

遊び

2024. 12. 2

ある全国調査の結果がある。幼稚園、保育所、認定こども園に同じことを聞いている。「教育・保育の目標として特に重視していること」という質問に対する答えは、以下のようになっている。

幼稚園	1位	遊びの中でいろいろなものに興味をもつこと
保育所	1位	健康な身体をつくること
認定こども園	1位	遊びの中でいろいろなものに興味をもつこと
幼稚園	2位	のびのびと遊ぶこと
保育所	2位	遊びの中でいろいろなものに興味をもつこと
認定こども園	2位	のびのびと遊ぶこと
幼稚園	3位	基本的な生活習慣を身につけること
保育所	3位	のびのびと遊ぶこと
認定こども園	3位	健康な身体をつくること

こうしてみると、いずれの園種でも「遊びの中でいろいろなものに興味をもつこと」「のびのびと遊ぶこと」を特に重視していることがわかる。要領や指針の考え方への理解が進み、実践が広がったことの表れであろう。また、保護者の思いとしても、少子化が加速し、子ども同士で遊ぶ機会が減ってきたということもあるだろう。コロナ禍を経験したことによって、子ども同士が、のびのびと遊べる場としての園の価値が高まっているということもあるかもしれない。

保護者からの要望の多様化に伴って、読み書きや体操、音楽活動など、一斉活動による決まったプログラムを取り入れる園もある。それでも、そうした活動を一日中展開しているわけではない。週に1回程度、数十分といった状況であれば、遊びを大切にする方針とも両立できるという考えがベースにあるのではなかろうか。

園に対する要望の多様化や高まりは、幼児教育・保育への期待が高まっていることを意味している。働き方改革などを進めながらも、園でできることは何かを考えていくことが重要である。その一つが、先生方の持ち味を生かすことである。先生方一人一人が、それぞれ得意なもの、好きなことなどをもっている。それらを園の教育・保育に生かしていくことで質を高めていきたい。遊びをさらに充実させていきたい。そうすれば、先生方一人一人が生き生きと輝くはずである。それが、子どもにとって一番よいことである。子どもにとって、遊びは学びである。